

栃木県の戦略的な国際化推進策を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

この放送は受験生の学びや開倫塾の提供でお送りします。おはようございます。

今日も開倫塾の時間をお聞き頂きましてありがとうございます。先週は県会議員の選挙がありました。当選なさった方は、栃木県のために頑張ってもらいたいと思います。さて、今日は栃木県の国際化を推進するにはどうしたら良いかを皆さんと考えたく思います。

栃木県は人口約200万人の県です。栃木県をどのようにしたらよいか。そのときのポイントの1つが栃木県の国際化を進めるかの政策、ポリシーです。できれば、2050年とか2100年を見据えた栃木県の国際化の戦略構想を考えるべきだと思います。FTA、自由貿易協定。2国間協定が、日本・シンガポールを始め、世界で300くらい結ばれています。これがもっともっと促進されると、人とか物とかお金とかサービスとかの移動が非常に盛んになります。そういうFTAの促進の結果、栃木県はどうなるか。これからは、栃木県とか群馬県とかですね、県と県の間競争、県間競争の時代ですから、FTAの促進の動きに乗り遅れないようにするにはどうしたらよいか。一番考えなければならないのは、栃木県の長所をよく考えて改善すべき点を考えて、栃木県の国際化推進の戦略構想上のしくみを考えることです。しくみができたらそのしくみを磨き込めばいいわけです。栃木県の長所というのは何か。考えますと長所は3つあります。自然が素晴らしい。日光、那須などは世界的に有数の自然ですけれども、栃木県中自然が豊か、自然がいっぱいですよね。美しい山があり、平野があり川があります。プラスなんと言ってもこれから癒しの時代で温泉が喜ばれる。温泉が栃木県中にある。このように、良い所の1つに豊かな自然があります。

それから2番目として、栃木県は中世文化が花咲いた所です。足利市に足利学校があります。これは日本で一番古い学問所です。日光の東照宮は、江戸時代の宗教の中心地。文学的には松尾芭蕉の奥の細道もあり、非常に素晴らしい所です。鎌倉、室町、江戸時代、日本の中世文化の代表的なものが学問、宗教、文学と取りそろっている。これが栃木県の素晴らしさの2つ目です。自然と精神のバランスが取れているのが栃木県です。

それから3番目として、先端産業の集積地があげられます。栃木県は自動車産業の集積地、栃木県は日本のデトロイトなんです。トヨタさん以外は全て揃っているんですよ。自動車産業のメッカが栃木県です。ホンダさん、ニッサンさん、イズズさん、富士重工さん、素晴らしい自動車産業が揃っています。それプラス宇宙航空機産業がですね、本当に素晴らしいものがあります。皆さんあまり知らないかもしれませんが、大学の宇宙航空機学科の卒業生が一番多く就職するのが栃木県です。このように、日本一、つまり世界一の先端産業の集積地が栃木県であります。豊かな自然と中世文化を中

心とした精神、それから世界の最先端の第二次産業の集積地が栃木県であります。

このような長所を生かして、栃木県の国際化を戦略的に推進するにはどうしたらいいか。改善すべき点は、資本の移動、ものの移動、人の移動について国際化が進んでいない。全く大変なのは、教育分野です。二次産業は少しはいいですけども三次産業、四次産業も国際化が進まず大変ですよ。それから1次産業も大変ですね。ですからこれから先は、産業別の、栃木県としての国際化戦略を練らなければならない。例えば農業でしたら首都圏農業で今はいくらか良いんですけど、これがこの先どうなるか。国際化に太刀打ちできるような農業を栃木県としてどんなふうに創っていくか。特に中国とかアジア諸国からものすごい勢いでこれから日本の中に農産物を売ろうとしています。それに太刀打ちできる栃木県の農業をどんなふうにするか。二次産業も最先端の産業の国際化をどのようにもっともっと促進するか。二次産業でも、繊維産業や下請け工場をどのように考えるか。三次産業、流通業をどうするか。これから先ディスカウントの物が一杯入ってきます。四次産業、つまり純粋なサービス業を国際化させるにはどうしたらよいか。栃木県は有数の観光県ですが、国際観光をどうするか。豊かな自然を、観光資源を利用し国際化するか、これが大事です。

そのための基盤作りになるのが教育です。今お話ししましたような、国際化戦略に基づいて初等教育、中等教育、高等教育、リカレント教育、生涯教育をどうするかという大変な課題があります。更にダイバーシティといいますか、異文化に対して、自分と異なるものを受け入れるようなそういうような教育のしくみが必要です。異文化教育をどんな風に戦略的に構想するか、外国語教育も大事。群馬県の太田市は、小学校からずっと英語で教育をする学校をつくるという事を言ってます。そこまでいなくていいかもしれませんが、栃木県内の全ての学校、小学校、中学校、高等学校、それから、大学、大学院、専門学校、それから生涯教育の英語の先生が全部英語で授業をすることが大切です。それにはどうすればいいかという事なんです。それから、国際化が進めば進むほど、外国人犯罪が増えますので、国際犯罪ゼロの栃木県を創らなければならない。人間の安全保障という点から物事を考えることも大事。様々な国から来県する方々の生活を守るために、英語以外の外国語の教育も積極的に促進しなければなりません。戦略的に外国語教育の促進を考えることも栃木県の国際化を考える上で欠かせません。これから国際化推進のベストプラクティスのベンチマーキング、つまり最良の実践例、県内、国内、海外を参考に、どうしたら栃木県の国際化が進むのかということを経営的に考えなければいけない。最終的には栃木県の国際化の担い手の育成のために戦略を立てることが大事。栃木県の自然と精神、文化、産業、伝統を最大限尊重しながら、2050年～2100年を見据えた国際戦略を考えて、日本一、できればアジア一の国際化された栃木県を目指すことが栃木県の経済の活性化と県民生活の向上を可能にするのではないかと考えます。

是非皆さんも、これから栃木県がどんなふうに進化したらいいのかお考え頂ければと思います。特に今度、県会議員になった方は福田昭夫知事とよく相談をして、FTAの動きを先取りにした素晴らしい国際県、栃木県を創って頂ければと思います。

それから車の運転をしている方はくれぐれも前の車に追突しないように、車間距離を十分離して運転して下さいね、お願いします。

(2003年4月19日記)